

科目	臨床病態生理学				
時間数	31	講義29 演習1 試験1			
概要	1.臨床解剖学	人体の正常な構造と機能の正確な理解によって、人体の異常な状態、病気の成り立ちを認識することができ、その診断や治療法へとつながる。本講義では、全身の器官・臓器について個々の構造を学習し、なぜそのような構造をしているのかを、その器官・臓器の働きと関連づけて、人体を俯瞰して理解する。			
	2.臨床病理学	臨床病理学は、疾病の原因、病変の発現機序、それらの因果関係及び相互関係を考察し、正しい疾病観と疾患の具体的概念を学習し、理論と同時に臨床医学への基礎作りも兼ねるものである。本講義では、各器官・臓器ごとの疾病の定義と特徴および顕微鏡所見、病因論などを学ぶ。			
	3.臨床生理学	臨床解剖学で人体の形態と構造を学んだ後の学習のステップとして、臨床生理学でその役割と機能を学ぶ。本講義では、人体の生理学的な機能異常に基づく代表的な疾患を理解し、エビデンスに基づいた最善のケアを提供できるよう、生理機能評価の方法と実際を学ぶ。			
目標	<p>①人体の正常な機能や構造、およびその破綻や調節機能異常に基づく症状やメカニズムを理解し、患者の身体を統合的に把握するための基本的な知識を身につける</p> <p>②多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントし、必要な治療を理解してケアを導くための基本的な能力を身につける</p>				
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）				
講師	別紙「指導者一覧」参照				
	学ばべき事項	授業内容	方法	時間	
1	1.臨床解剖学	①神経系	脳神経系	講義	0.5
2		脳動脈・脳静脈と髄液	講義	0.5	
3		②循環器	心臓の解剖	講義	0.5
4		③呼吸器	胸部の解剖	講義	1
5			上気道、下気道、肺胞の組織構造～換気から拡散へ～	講義	0.75
6		④消化管・肝胆膵	消化器総論	講義	1
7			口腔・咽頭と食道	講義	0.5
8			胃・十二指腸	講義	1
9			肝胆膵脾の解剖	講義	1
10		⑤腎・泌尿器	腎臓の解剖	講義	1
11			腎臓の機能～内分泌機能を中心に～	講義	0.5
12		⑥内分泌・代謝	内分泌の解剖・生理学～甲状腺、副腎、視床下部-下垂体～	講義	0.5
13		⑦免疫	細胞性免疫不全～HIV感染症について医療者として知っておくべきこと～	講義	1
14		⑧血液	赤血球、白血球、血小板	講義	0.75
15		⑨感覚器	聴覚	講義	1
16			眼科	講義	0.5
17	2.臨床病理学	⑩呼吸器	呼吸器疾患の病理	講義	0.75
18		⑪消化管・肝胆膵	上部消化管の検査	講義	1
19			下部消化管の検査	講義	1
20		⑫腎・泌尿器	尿検査	講義	1
21			腎生検～適応から病理まで～	講義	1
22		⑬感染症	病態微生物（細菌・真菌）～ミクロの世界から考える感染症～	講義	1.25
23			ウイルス感染症	講義	1

20		⑭悪性腫瘍	腫瘍の病理学	講義	1
21		⑮運動器	神経筋疾患	講義	1
22	3.臨床生理学	⑯循環器	心筋の収縮	講義	0.5
23			心臓の電気生理学	講義	1
24		⑰呼吸器	呼吸運動と換気	講義	0.5
25			ガス交換と酸素運搬	講義	1
26			血液ガス分析総論	講義	1
27			血液ガス分析実践	講義	0.5
28		⑱消化管・肝胆膵	消化管ホルモン（肝、膵）、消化と吸収	講義	1
29			肝胆膵の生理・生化学	講義	0.5
30		⑲腎・泌尿器	体内の水分と電解質	講義	1
31			透析の基礎～透析の原理、処方と管理～	講義	1
32			血液ガス分析（症例検討）	演習	1
33	科目修了試験			試験	1
評価	講義	eラーニング全講義受講・確認テスト結果：正解率100%			
	演習	課題レポート評価:合格			
		自己評価			
	試験	筆記試験 正解率90%以上			

科目	臨床推論			
時間数	45	講義26.5 演習16 実習1.5 試験1		
概要	1.診療のプロセス	患者の症候からその病態を推理する診療のプロセスとして症候診断の基本的な考え方を学ぶ。		
	2.臨床推論（症候学を含む）の理論と演習	患者が訴える症候から疾患群を想起し、何が最も疑わしいかについて一定の様式で臨床推論を行うため、症候学は臨床診断を行う上で重要な概念である。疾病を病因や病態からとらえるのではなく、患者の示す様々な訴えや診察所見から疾病を定義・分類し、主要な症候から疾患の診断ができるように、知識を統合し得られる情報を用いて論理的に推論する能力を身につける。		
	3.医療面接の理論と演習・実習	医療は患者との間の良好な信頼関係の形成から始まるものであり、良好な人間関係の構築と病歴の聴取及び身体所見の適格な取得には、一定の水準に達した診察技量が必要である。信頼関係の形成の基礎となる医療面接についての知識およびコミュニケーション技法を身に付け実践する。		
	4.各種臨床検査の理論と演習	日常頻繁に使用されている臨床検査項目について、検体採取から臨床的意義並びに検査値の基本的な考え方など、臨床検査を中心とする一連の診断プロセスと病態との関係を総合的に学習する。		
	5.画像検査の理論と演習	X線写真、CT、MR、超音波断層、核医学検査等の各種検査の臨床的意義、使用する装置の特性、そして実際の検査方法から結果の判読・評価に至るまで、基礎的な知識から臨床の場に即した検査結果と病態との関連について体系的に学ぶ。		
	6.臨床疫学の理論と演習	客観的な疫学観察や統計学による治療結果の比較に根拠を求めながら、実地診療における臨床判断をエビデンスに基づいて実施するために臨床疫学の理論および手法論を学習する。		
目標	①多様な臨床場面において患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実践するための臨床推論および医療面接の知識と実践能力を身につける ②多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントし、必要な治療を理解してケアを導くための基本的な能力を身につける ③患者の診療に必要な情報源（医療面接、各種臨床検査、画像検査、臨床疫学など）を理解し、患者の意向や生活の質に配慮しつつ、患者の病態に基づいたケアが提案できる			
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）			
講師	別紙「指導者一覧」参照			
	学ぶべき事項	授業内容	方法	時間
1	1. 診療のプロセス	診療のプロセス	講義	0.75
2		臨床推論～診断を中心に～	講義	1
3	2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習	尿量減少	講義	1
4		胸痛	講義	0.5
5		呼吸困難	講義	1
6		発熱	講義	1
7		意識障害	講義	1.5
8		頭痛	演習	1
9		胸痛	演習	1
10		腹痛	演習	1
11		吐下血	演習	1
12		呼吸困難	演習	1
13		発熱	演習	1
14		体重減少	演習	1
15		一過性意識消失	演習	1

16		腎機能障害	演習	1
17	3.医療面接の理論と演習・実習	医療面接の理論	講義	0.5
18		医療（看護）面接	演習	1.5
19		医療（看護）面接	実習	1.5
20	4.各種臨床検査の理論と演習	心電図～基礎と応用～	講義	2.5
21		血液検査・尿検査：検査値の読み方・考え方	講義	1
22		病理検査	講義	1
23		微生物学検査：感染症の診断と抗菌薬の選択	講義	1.5
24		生理機能検査：呼吸機能検査	講義	1.5
25		その他の検査：症例から学ぶ感染症診療の考え方	講義	1.5
26		心電図	演習	3
27	5.画像検査の理論と演習	放射線の影響：放射線科と看護	講義	1
28		放射線の影響：造影剤副作用～アナフィラキシーを中心に～	講義	1
29		各種画像検査の概要	講義	1
30		画像診断で何がわかるか	講義	0.75
31		単純エックス線検査 読影ポイント1：読影の基本と胸水	講義	1
32		単純エックス線検査 読影ポイント2：カテーテルの正しい留置位置と合併症	講義	1
33		超音波検査1 基礎	講義	1
34		超音波検査2 各論	講義	1
35	その他の画像検査 核医学検査	講義	1.25	
36		咳・痰がある患者の画像診断	演習	1.5
37	6.臨床疫学の理論と演習	研究の読み方1 統計用語の理解とEBM	講義	0.75
38		研究の読み方2 研究デザインとジャーナルクラブ	講義	0.5
39		臨床疫学	演習	1
40	科目修了試験		試験	1
評価	講義	eラーニング全講義受講・確認テスト結果：正解率100%		
	演習	課題レポート評価:合格		
		自己評価		
	実習	自己評価		
試験	筆記試験 正解率90%以上			

科目	フィジカルアセスメント			
時間数	45	講義17.5 演習2 実習24.5 試験1		
概要	高度な看護実践を行うために、必要な情報を収集する身体面の観察技術(面接、視診、触診、打診、聴診、測定)を習得し、経緯や自覚症状などと照らし合わせながら問診を行い、観察した結果から対象の健康状態を評価するまでの過程を学習する。また、小児・高齢者など身体診察の年齢により変化をともなうフィジカルアセスメントの知識、救急及び在宅医療の状況に応じた身体診察技術を修得する。			
目標	①多様な臨床場面において患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実践するための臨床推論および医療面接の知識と実践能力を身につける ②多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントし、必要な治療を理解してケアを導くための基本的な能力を身につける ③患者の診療に必要な情報源（医療面接、各種臨床検査、画像検査、臨床疫学など）を理解し、患者の意向や生活の質に配慮しつつ、患者の病態に基づいたケアが提案できる			
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）			
講師	別紙「指導者一覧」参照			
	学ぶべき事項	授業内容	方法	時間
1	1.身体診察基本手技の理論	身体診察基本手技	講義	1
2		身体診察基本手技	演習	0.5
3		身体診察基本手技	実習	0.5
4	2.部位別身体診察手技と所見の理論	全身状態とバイタルサイン	講義	0.75
5		頭頸部 HEENT (head, ears, eyes, nose, throat)	講義	1
6		胸部：循環器	講義	2
7		胸部：呼吸器	講義	1.5
8		腹部	講義	1
9		四肢・脊柱：骨格筋	講義	0.5
10		泌尿・生殖器：腎・泌尿器	講義	1
11		泌尿・生殖器：産婦人科	講義	1.5
12		乳房・リンパ節系：乳房・甲状腺	講義	0.5
13		乳房・リンパ節系：皮膚とリンパ節	講義	0.5
14		神経系	講義	0.5
15		頸静脈、末梢動脈の診察	演習	1.5
16		フィジカルアセスメント総論	実習	1.5
17		頸静脈、末梢動脈の診察	実習	1.5
18		頭頸部の診察	実習	1.5
19		呼吸の診察	実習	1.5
20		心音の診察	実習	1.5
21		腹部の診察	実習	2.5
22		高位脊髄損傷の診察	実習	1
23		膝、肩の診察	実習	1.5
24		手の診察	実習	1.5
25		腎・泌尿器の診察	実習	1
26		リンパ節・皮膚の診察	実習	2.5
27		神経系の診察	実習	1.5

28		認知症疑いの診察	実習	1.5
29		第一印象の把握	実習	1
30		通しの全身診察の型	実習	2.5
31	3.身体診察の年齢による変化	小児	講義	2
32		高齢者	講義	1
33	4.状況に応じた身体診察	外傷初期診療 (JATEC)	講義	0.75
34		在宅医療	講義	2
35	科目修了試験		試験	1
評価	講義	eラーニング全講義受講・確認テスト結果：正解率100%		
	演習	課題レポート評価:合格		
		自己評価		
	実習	自己評価		
試験	筆記試験 正解率90%以上			

科目	臨床薬理学					
時間数	45	講義32.5 演習11.5 試験1				
概要	薬剤学・薬理学の基礎知識を深め、主要な疾患別の治療薬ならびに予防薬の薬効、作用機構、副作用、リスクマネジメント等、臨床における薬物の理論と実際について学習する。また、小児、女性、高齢者等、年齢による特性・個体差のある薬理作用と主要薬物の安全管理を学ぶ。					
目標	①多様な臨床場面において必要な治療を理解し、患者の安心に配慮しつつ、ケアや特定行為を安全に実践する能力を身につける ②主要な疾患別の治療薬および予防薬の作用機序、体内動態、薬理作用、副作用、相互作用、投与方法、投与後のモニタリングについての基本的な知識を身につける ③薬剤学・薬理学の基礎知識を深め、安全な管理と処方理論を理解できる					
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）					
講師	別紙「指導者一覧」参照					
	学ぶべき事項	授業内容		方法	時間	
1	1.薬物動態の理論と演習	薬物動態	薬物相互作用と薬物動態学の基礎知識	講義	1	
2			抗菌薬の投与期間	講義	0.5	
3			薬物動態・薬物相互作用	演習	0.5	
4	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習	神経系	慢性疾患のてんかんと急性期の急性症候性発作とてんかん重積状態	講義	1	
5			疼痛	講義	1	
6			頭痛・偏頭痛	講義	0.5	
7			鎮痛・鎮静・せん妄	講義	1	
8			悪心・嘔吐	講義	0.5	
9			パーキンソン病	講義	0.5	
10			脳卒中の急性期治療と慢性期2次予防	講義	0.5	
11			循環器	虚血性心疾患の薬物治療	講義	0.5
12				高血圧の薬物治療	講義	1
13				慢性心不全の薬物治療～左室駆出率の低下した心不全～	講義	1
14	不整脈の薬物治療～抗不整脈薬～	講義		1		
15	脂質異常症	講義		0.5		
16	抗凝固薬・抗血小板薬	講義		1		
17	呼吸器	喘息・COPDの薬物治療	講義	1		
18		肺炎の薬物治療	講義	1		
19	消化器	便秘・下痢	講義	0.5		
20		消化器薬（ピロリ菌・胃潰瘍）	講義	0.5		
21	内分泌・代謝	糖尿病の薬物治療	講義	1		
22		高血糖緊急症	講義	1		
23		甲状腺治療薬	講義	0.5		
24	感染症	抗菌薬治療の概論	講義	0.75		
25		敗血症	講義	1		
26	免疫	抗リウマチ薬・抗アレルギー薬	講義	0.5		
27		免疫抑制薬	講義	0.5		
28		悪性腫瘍	抗がん剤	講義	1.5	

29		血液	血液製剤、輸血	講義	0.5	
30			造血薬 (ESA・G-CSF・TPO)	講義	0.5	
31		感覚器	皮膚疾患 ステロイド外用剤	講義	0.5	
32		整形外科	骨粗鬆症	講義	0.75	
33		精神系	不眠症・せん妄	講義	1	
34			向精神薬	講義	1	
35		その他	電解質・輸液	講義	1	
36			栄養療法	講義	0.5	
37			痛風・高尿酸血症	講義	0.5	
38			漢方	講義	1	
39			脳梗塞	演習	1	
40			高血圧	演習	1	
41			心不全	演習	1	
42			脂質異常症	演習	1	
43			気管支喘息	演習	1	
44			肺炎	演習	1	
45			1型糖尿病の薬物治療	演習	1	
46			2型糖尿病の薬物治療	演習	1	
47			感染症	演習	1.5	
48			不眠症	演習	1	
49	4.主要薬物の安全管理と処方理論と演習	安全管理・処理	小児における薬物療法の注意点とワクチン	講義	1	
50				特別に考慮の必要な患者群 (妊婦・授乳婦・高齢者)	講義	1
51				肝・腎障害患者へ投与する際の注意点	講義	1
52				処方基礎・法的問題・麻薬・向精神薬の取り扱い	講義	0.5
53				医薬品副作用被害救済制度	講義	0.5
54				妊婦に対する薬物療法	演習	0.5
55	科目修了試験			試験	1	
評価	講義	eラーニング全講義受講・確認テスト結果：正解率100%				
	演習	課題レポート評価:合格				
		自己評価				
試験	筆記試験 正解率90%以上					

科目	疾病・臨床病態概論				
時間数	41	講義37 演習3 試験1			
概要	循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患等、プライマリ・ケアの場において遭遇することの多い主要な疾患・症状に対しての、病態生理、臨床像、治療について基本的知識を学ぶ。救急患者への対応や重症化予防の重要性を理解し、臨床診断・治療の特性に応じた治療を実践するための知識と考え方を学ぶ。在宅医療において主要な病状の病態生理に基づいて、基本的な診察面接・身体診察・救急蘇生（Basic Life Support）の実際を学ぶ。				
目標	①主要疾患の病態生理、臨床像、診断、治療を理解する ②年齢（小児、高齢者など）や状況（救急医療、在宅医療など）に応じた臨床診断・治療の特性を理解する ③多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントし、必要な治療を理解してケアを導くための基本的な能力を身につける				
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）				
講師	別紙「指導者一覧」参照				
	学すべき事項	授業内容	方法	時間	
1	1. 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論	虚血性心疾患	講義	0.5	
2		循環器系	心臓弁膜症～大動脈弁狭窄症・僧帽弁逆流症～	講義	0.5
3			不整脈	講義	0.5
4			高血圧	講義	0.5
5			心不全と利尿薬	講義	0.75
6			呼吸器系	気管支喘息・COPD	講義
7		肺炎		講義	1
8		肺がん、胸膜・縦隔疾患		講義	0.5
9		気胸		講義	0.5
10		消化器系	イレウス	講義	1
11			黄疸	講義	1
12			吐血・嘔吐	講義	0.75
13			肝疾患	講義	0.75
14			肝性脳症・肝性昏睡	講義	0.5
15			急性膵炎	講義	0.5
16		腎・泌尿器系	急性腎障害（AKI）	講義	0.75
17			慢性腎臓病（CKD）	講義	1.5
18		内分泌・代謝系	糖尿病	講義	1
19			カリウム異常	講義	0.5
20			低Na血症、高Na血症	講義	0.5
21			高カルシウム血症のアプローチ	講義	0.5
22			下垂体-甲状腺-副腎	講義	0.75
23		免疫・膠原病系	関節痛	講義	1
24			関節リウマチ	講義	0.5
25		血液・リンパ系	貧血の初期評価	講義	0.5
26			悪性リンパ腫、急性白血病	講義	0.5
27		神経系	脳梗塞	講義	0.5
28			脳出血（脳内出血、くも膜下出血、硬膜下出血）	講義	0.5
29		小児科	小児期の急性疾患～急性咽頭痛、急性中耳炎、髄膜炎～	講義	1
30		産婦人科	産科疾患	講義	0.5
31			婦人科疾患	講義	1
32			認知症	講義	0.5

33	2.状況に応じた 臨床診断と治 療	精神系	気分障害（うつ病、双極性障害）	講義	1
34			せん妄	講義	0.75
35			統合失調症	講義	0.5
36		運動器系	運動器疾患～足・膝靭帯損傷、肩関節脱臼、変形性関節症、 坐骨神経痛、骨粗鬆症に伴う圧迫骨折、大腿骨頸部骨折～	講義	1
37			腰痛	講義	0.5
38		感覚器系	耳鼻科外傷	講義	0.75
39			眼科疾患1～眼の解剖と前眼部疾患～	講義	0.75
40			眼科疾患2～後眼部疾患～	講義	0.75
41		感染症	胆管炎・腹腔内感染症	講義	0.5
42		その他	悪性腫瘍総論	講義	1
43			頭痛	講義	0.5
44		救急医療	頭部外傷	講義	0.5
45			頸部外傷	講義	0.5
46			胸部外傷	講義	0.5
47			Refeeding症候群	講義	1
48			中毒	講義	0.5
49	薬物中毒		講義	0.5	
50	偶発性低体温症		講義	0.5	
51	熱中症		講義	0.5	
52	熱傷		講義	0.5	
53	熱中症		演習	1	
54	在宅医療		看取り	講義	1
55		褥瘡管理	講義	1	
56		看取り	演習	1	
57		褥瘡管理	演習	1	
58	科目修了試験			試験	1
評価	講義	eラーニング全講義受講・確認テスト結果；正解率100%			
	演習	課題レポート評価:合格			
		自己評価			
試験	筆記試験 正解率90%以上				

科目	医療安全学/特定行為実践			
時間数	45	講義24.5 演習14 実習5.5 試験1		
概要	1. 特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証（Quality Care Assurance）を学ぶ。医療内容の複雑化、高度化、社会構造の変化、国際化などにより、医療現場ではさまざまなリスクが発生している。本講義では、特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全そしてケアの質保証の知識を理解し事例検討及びグループディスカッションを通して、医療安全の理解・実践に多面的にアプローチする。			
	2. 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践（Inter Professional Work (IPW)）（他職種との事例検討等の演習を含む）を学ぶ。 チーム医療の理念と専門的サービスを提供する職種間の連携のあり方について学び、チーム医療の実際と今後チーム医療の中心としての特定行為研修を修了した看護師が担うべき役割について学習する。			
	3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ。 特定行為に係る看護師の研修制度創設の背景と経緯、制度の概要から、医師法、保健師助産師看護師法、特定行為に係る看護師の研修制度の関連法規等を学ぶ。また、特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論を学ぶ。			
	4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ。 医師、歯科医師が看護師に特定行為を行わせるための「患者の病状の範囲」「診療の補助の内容」の指示として作成する文書である手順書の位置づけを学び、手順書の作成演習、使用する手順書の妥当性の検討及び手順書の見直し等評価と改良の手法を学ぶ。			
目標	①医療安全の原理・原則を理解し、多様な臨床場面において患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実践するための能力を身につける ②医療安全に関わる法、倫理、制度、システムを理解する ③患者および医療従事者にとって安全な医療の遂行に向けて、多職種と効果的に協働する能力を身につける ④医療事件事例を分析し、医療事故防止および事故後の対処ができる ⑤問題解決に向けて多職種と効果的に協働する知識と実践能力を身につける ⑥医療者、患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームド・コンセントが実施できる ⑦多様な臨床場面において患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実践するためのアセスメント、仮説検証、意思決定の知識と実践能力を身につける ⑧根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直す知識と実践能力を身につける ⑨自らの看護実践を見直しつつ、標準化する能力を身につける			
研修方法	講義（放送授業）：eラーニングの受講 演習（面接授業）：ペーパーシミュレーションによるディスカッション・レポート提出 試験（筆記試験）：科目修了試験の実施（教室に集合しPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）			
講師	別紙「指導者一覧」参照			
	学ぶべき事項	授業内容	方法	時間
	1. 特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証（Quality Care Assurance）を学ぶ			
	1	医療安全を学ぶにあたり 安全の概念と技術にふれて	講義	1
	2	1.医療倫理 医療安全と医療倫理～立ち止まる倫理のススメ～	講義	1
	3	臨床倫理	講義	1
	4	2.医療管理 医療安全の考え方と対応	講義	1
	5	安全管理と理論	講義	1
	6	現場におけるエラーや事故の要因と対策	講義	1
	7	医薬品・医療機器を扱うための安全管理	講義	1
	8	3.医療安全 医療安全に関する法律（制度）	講義	1
	9	医療事故への対応～医療事故調査制度を学ぶ～	講義	1
	10	プロセスを意識した医療安全の考え方	講義	1
	11	事例要因分析	講義	1

12		危険予測と発生防止	講義	1
13	4.ケアの質保証	医療の質改善について	講義	1
14		医療安全体制の構築～患者安全活動の全体像～	講義	1
15	医療安全演習	臨床倫理	演習	1.5
16		現場におけるエラーや事故の要因と対策	演習	1
17		医療事故発生時とその後の対応	演習	1
18		医療安全体制の構築に関する事例検討	演習	1
2. 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践（IPW）（他職種との事例検討等の演習を含む）を学ぶ				
19	5.チーム医療	チーム医療の理論と事例検討	講義	1
20		チーム医療に必要な医療者同士のコミュニケーション	講義	0.75
21	6.コンサルテーション	コンサルテーションの方法 ～専門外の科への依頼書作成、依頼の方法、判断～	講義	1
22	7.多職種協働	多職種協働の課題	講義	1
23	チーム医療演習	チーム医療～終末期患者の退院支援～	演習	1.5
24		コンサルテーション～症例① せん妄～	演習	1
25		コンサルテーション～症例② 高カリウム血症～	演習	1
26		チーム医療（他職種との協働）の事例検討	演習	1.5
3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ				
27	8.関連法規	「特定行為に係る看護師」の関連法規～修了者としての働きをみすえて～	講義	1
28	9.意思決定支援	インフォームド・コンセントの理論	講義	0.75
29		覚えておきたいインフォームド・コンセントのテクニック	講義	1
30		アセスメント、仮説検証、意思決定の理論	講義	1
31		クリティカルシンキング	講義	0.5
32		特定行為に係る看護師の倫理	講義	0.5
33		意思決定支援	講義	1
34		インフォームド・コンセント～末梢留置型中心静脈カテーテル（PICC）留置～	演習	1
35		意思決定支援	演習	1
4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ				
36	手順書の位置づけ		講義	0.5
37	手順書の作成		演習	1
38	手順書の評価		演習	1
39	手順書の改良		演習	0.5
5. まとめ				
40	共通科目の学びかを活かした特定行為実践に向けて		講義	0.5
41	医療安全に関する実習		実習	1
42	医療安全学/特定行為実践 総合実習		実習	3
43	特定行為研修の振り返りとこれからの実践		実習	1.5
44	科目修了試験		試験	1
評価	講義	eラーニング全講義受講・確認テスト結果：正解率100%		
	演習	課題レポート評価:合格		
		自己評価		
	実習	自己評価		
試験	筆記試験 正解率90%以上			